

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 南 佳枝22 年度 (入学)・編入

1. 研究課題：

アフリカ農村女性の生活用具とその利用—エチオピア西南部アリの台所用具に注目して—

2. 派遣期間：

平成 23 年 8 月 1 日 ~ 23 年 11 月 21 日 (52 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

アリの人びとの生活用具の調査では、地域外からもたらされたプラスチック・金属製品などの数が増える一方、地域内の素材で製作された生活用具を 10 年前と同じ割合で利用していることが明らかになった。また、アリの女性たちは世代、宗教、経済的要因に関係なく同じように台所用具を利用していた。台所用具の製作と販売の調査では、地域内の素材で製作された台所用具の供給は不規則的で、そのような状況の中で、女性たちは日常的に台所用具の貸し借りを行っていることが明らかになった。台所用具をめぐる女性の社会関係の調査では、1)近年高地から低地へと移住する人が増加している中で、低地の女性たちは親戚関係、近隣関係、「ジャラ」とよばれる関係にある女性と台所用具の貸し借りを日常的に行っていたこと。2)高地から低地へとやってきた女性が低地の女性と「ジャラ」とよばれる関係を結ぶことで、高地の女性が徐々に低地のコミュニティーに入っていくことができてきたことが明らかになった。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回の調査の反省点は以下 2 点である。1 点目は、聞き取り調査の際、事前準備が不十分であったこと。台所用具の利用調査の際、世帯の状況の聞き取り調査も同時に行ったが、聞き忘れている項目がいくつかあった。今後聞き取り調査の際は、聞き忘れのないよう、またスムーズに調査を進めるよう、質問項目リストを作成し調査を行いたい。2 点目は、現地語の習得不足である。現地語は生活の中で習得してきたが、表記の仕方や発音、微妙ないいまわしなどを深く理解すること難しかった。今後は、現地語の文法、発音、会話などを体系的に学んだうえで、より深く地域の人びとの生活を理解し、調査を進めていきたい。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

本プログラムが有意義であった点は、プログラムが現地でのフィールドワークを中心に組み立てられており、自分の調査地域での調査のみに集中することができたことである。今後は現地語を学ぶ留学プログラムに参加し、より高いレベルの現語習得を目指したい。

署名 _____